

IFI '95 NAGOYA

インテリア-新しいうねりの創造
INTERIORS: NEXT WAVE

阪神・淡路大震災に思う IFI'95に問題提起を

理事長 長岡 貞夫

阪神・淡路大震災から早くも2ヶ月半を経ようとしています。

ここにあらためて、被災された関西在住の協会関係者、並びにご家族の方々に心からお見舞いを申し上げます。

今回の地震がもたらした被害の大きさ、激しさは、言語に絶するものがあり、自然の脅威の恐ろしさをこれ程まで見せつけられた経験は、かつて無かったと言っても過言ではありません。災害にみまわれ、心身共に大きな打撃を受けられた方々の胸中察するにあまがあります。

私共、協会としまして、また個人といたしまして、微力ではありますができる限りのことをさせていただき、被災された皆様が一瞬も早く平常に復帰されることをお祈りいたします。

計り知れない自然の力に対して、人間の弱さ、空しさを感じます。人の生命の安全と保守について、インテリアデザイン、あるいは領域を越えた創造がいかに貢献できるか、私達の緊急の課題であり、取り組むべき大きな命題ではないでしょうか、多くの皆さんの英知の結集が望まれます。私見ですが、IFI'95名古屋会議で問題提起ができればと考えています。

春の音が聞こえてくる今日この頃です。くれぐれもご自愛ください。

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1995

2・3

「目次」

特集/「阪神・淡路大震災」

- 阪神・淡路大震災に思う 1
- 巨匠 ハンス J ウェグナー展を見て 5
- 1995年「JID賞」について 7
- 会員拡充のために、「JID入会のおすすめ」を制作... 7
- 「世界のインテリアデザイナー作品集」進行状況... 8
- DESIGNERS AID “もの”の協力と販売員としてのボランティア募集中 8
- 「JAPANTECH '95」JIDブースを出展 9
- 「報酬基準」の作成について 10
- 「フィンランド・サマー・アカデミー」のご案内... 10
- 平成6年度・第4回理事会報告 11
- 関東事業支部の動き 13
- 中部事業支部の動き 15
- 関西事業支部の動き 15
- 九州事業支部の動き 15
- リリカラウォールラボ“CoCo”特別展示の案内... 17
- 平成7年度「文芸美術国保」のご案内 18
- 新入会員の紹介 20

予 告

今年は「第27回通常総会」及び「第2回関東事業支部総会」が、同日開催となります。

また、この機会に「IFI'95名古屋」を目前にして、新しい趣向の「懇親会」も計画中ですので、ご予定ください。

●日時/平成7年5月26日(金) 午後～夜

●場所/新宿パークタワー8F

セミナールーム、クラブスクエア

(本部事務局)

阪神・淡路大震災に思う 悪夢をバネにして次なる夢を

関西事業支部支部長 千田 要宗

1月15、16日の連休明けの
早朝、多くの人の幸な眠りを、
引き裂くように、17日AM5:
46分、地震が来た。私の自宅
は、川西宝塚、ゴーというすご



い音と共に、家を持ち上げるようにしてすさまじいユレ。
飛び起きて廊下へ、家族に声をかける。大丈夫。停電、
電話がかからない。懐中電灯を持って階下へ。玄関で愛
犬が震えている。居間や書斎を見るが、シーンとして平
常。AM6時再び眠りに着く。AM7時事務所の者から
仕事場大丈夫の知らせが入る。この時始めて神戸で震度
6を知らされる。停電のため情報が入らない。このよう
にして悪夢の日が始まった。会社へ着き一仕事。昼食時
に始めてTVの映像を見る。ラジオからの情報では想い
もよらない光景が…。死者数百名の情報ではあるが、明
らかにそれどころでないことは一目で分る。おしゃれで、
幸な神戸の景色が…。JIDの山崎氏や小宮氏他はどう
なったのだろう。電話をするが不通。

18日、事務局の吉田氏や、東京の森谷氏に応援をお
願いして、兵庫県下の会員の安否確認を始める。電話の
かかりにくい中、お二人には大変ご苦勞をかけ、24日
になってやっと全員無事、例えようのない安堵感が体を
走る。同日、被災会員へのお見舞いのための義援金のご
協力をお願いする。関西事業支部の方々の大半が、その
多少に拘わらず、また被災者であるにも拘わらず、約36
万円もの義援金が集まる。ご協力頂いた会員の皆様には
心からお礼申し上げます。また、関東・中部・九州の各
支部からも、被災地への義援金に関西事業支部へ送られ
てきています。ご厚情感謝申し上げます。

さてこの度の震災で、戦後50年、民主主義の結果と
して、私達が選んだ内閣のあまりにお粗末な姿は、涙が
出る程無念であります。しかし、同じ国家の流れの中に、
私達のデザインも存在しているのかも知れません。デザ
インにもターニングポイントを迎えている今日、この悪
夢の震災をバネにして、新たなデザインのテーマ、新た

なインテリアデザインの社会的役割りを生み出していか
ねばなりません。転んでも、ただでは起きない関西人の
ど根性で、この悪夢の中から、次なる夢を創り出して
いくための行動に結びつけてゆくことが、今私達会員に求
められているように思えてなりません。

阪神・淡路大震災に思う 体験～復興

関西事業支部会員 小宮 容一

体験

1月17日(火) 午
前5時46分、ゴー

という音と共に体を揺すぶられ
て目覚める。渦巻状に振り回さ
れてベッドから立てない、ベッ
ドにしがみつくばかりである。18秒、揺れが止まる。

「子供は！」とベッドを飛び出すが、床は本の洪水、ド
アは本と本棚で開かない。ひっかかっている本をベッド
へほうり投げて、出る。子供の無事を確認する。

食器棚、食卓、テレビ、水槽それにピアノまで倒れて
いる。すごい！足の踏場を探っている内に、白んで来る。
6階のベランダから見ると、木造の建物が総倒れである。
ひどい！廊下に出て、向いの主人と顔を合わせて、命の
あることを喜ぶ。

焦燥感

その週の土曜日、京都の先輩が旅館を
取ってくれて、被災後初めて風呂に入る。
生きた心地である。

日曜日、難民ルックで、観光客に混じって「渡月橋」
「嵐山」を散策する。阪急電鉄、阪神電鉄を乗り継いで、
神戸に戻る — 瓦礫の中に戻って来る。ものすごい焦燥
感が襲って来る。グット足を踏まえて、瓦礫の中を、避
難住いのアトリエに戻る。

暖かい心

神戸に各地から救援物資が届く。ボラ
ンティア、警察、消防、救急、医療、水
道、ガスなど、あらゆる専門職が救援に来てくれている。
個人的にも、親戚が、友人が、同窓生が、教え子が、仕
事の関係者が最寄りの駅から、1時間、3時間と歩いて
訪ねてくれる。心のささえである。電話で、FAXで、
はがきで、手紙で励ましてくれる。人の心の暖かさが身
に滲みる。



JIDの会員の方々にも義援頂き、感謝しています。

復興

神戸は南に「瀬戸内海」北に「六甲山」があり、陽光のまぶしい明るい土地柄である。だからであろうか、神戸人は明るい。味曾有の被害であるが、強さというより、この持前の明るさで、立ち直ることを宣言できます。

今後も、ご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

(’95年3月、神戸市東灘区のアトリエより)

阪神・淡路大震災に思う 兵庫県を主とした、会員23人の無事を確認

(財)大阪デザインセンター JID 事務局担当 吉田 武司

このたび「阪神・淡路大震災」において、被災されました方々に謹んでお見舞い申し上げます。事務局としまして、最初の仕事は、阪神地区のお住まいの方々23名に連絡を取ることでした。



しかし、震災直後から3日間位は、なかなか連絡が取れませんでした。特に被害が大きいと聞いていた、東灘区が心配でしたが、3日目位で連絡が取れ、無事の報告を聞き安心しました。23名全員の確認には、1週間位かかりました。幸い怪我人も無く救われる思いでした。

次に支部役員の方々と、今後の対応について相談しまして、会員の方々の子細報告と義援金のご協力をお願いすることになりました。早速お願いいたしましたところ、多数の会員の方々からご協力頂きましてありがとうございました。

寄せられた義援金は、2月7日開催の支部運営委員会で協議して頂き、被災状況に応じて、お見舞金として、お送りすることを決めました。以上が、事務局としての震災からの事務的な仕事内容です。

ただ、今回の震災は、兵庫県南部が震災の中心でしたが、大阪府下の方にも被害が及んだにも拘わらず、TVや新聞の報道は、神戸中心に片寄り、あまり伝えられませんでした。大阪府下にお住まいの会員で家屋が半壊された方がおられました。今回のような大規模な震災で、電話・FAXが通信不能の状態が長く続けば、現地に行き調査することになったと思います。今日のような高度

情報化時代において、どうすることもできないのは、歯痒い思いです。

このたびの震災において、事務局に対しましてご支援、ご協力頂いた方々に心よりお礼申し上げます。

阪神・淡路大震災に思う 耐震インテリアの必要性

関東・前総務委員会委員長 館野 羊一

地球規模の『力』で、都市を揺さぶるなんて、脅威の天災であります。阪神の皆様、心よりお見舞い申し上げます。地震の少ない温暖の地、素敵な神戸と信じていましたので、驚きました。



東京に居て、神戸のSCやホテルのデザインをさせて頂いておりますので、早速、お施主様を訪問、お見舞い申し上げます。お施主様におかれましても、困難な時期にさらに苛酷な状況となりましたが、心より頑張ってくださいと思っています。

かねてより、インテリアプランニングと地震については、もっと真剣に研究しなければならない、と思っていました。大自然の猛威から人間を守るのが建築でありますから、躯体そのものが崩壊するなんて、自然に対する傲慢な人間の姿勢の現れと言えるかもしれません。経済性からくる合理性の追求と省略は、ギリギリの安全係数の考えたため、かも知れません。今度のことから、もう少し、危険係数を上げなければならなくなりました。

『もの』は壊れました。同時に『システム』も壊れました。『都市』もまた、壊れました。戦後、物の豊かな時代を楽しんで、インテリアブームと言われるほどに過ぎて来ましたが、この度の地震では、インテリアで家具が吹っ飛び、家財が散乱しました。人を守って安全であるべきインテリアに、危険があることを再確認しました。

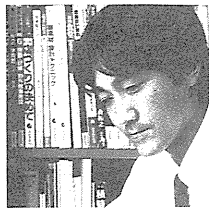
そして初めての課題として、家具群の耐震思考を詰める必要が出てきました。そこでふと、私共が得意としている、船舶のインテリアプランニングを、これに生かせることに気が付きました。常に揺れているインテリアを作る設計は、そう難しくありません。リ・デザインすれば、『もの』も『システム』も再構築できると思います。

『耐震インテリア』レポートを出し合うというのは、いかがでしょう。

阪神・淡路大震災に思う 自然環境生活都市の整備を期待

中部・総務委員会委員長 奥山 壽一

今回の大震災によって、様々な不幸に見舞われた方々に對し、心よりお見舞申し上げます。私も兵庫県デザイナーバンクに登録させて頂いており、出来る



ことがあれば、協力させて頂きたいと思っております。

地球大自然の営みの前では、人間の力（科学技術文明）は微力であり、人が創り上げたもので、人が被害を受けると言った悪循環の感があります。極論ですが、広々とした大地であれば、天災地変時の人の動きや人の心への対応がスムーズだったと思います。設計やデザインレベルでなく、もっと奥底の人が生きる、自然と共存する、日常の心のゆとりと言った方向性が必要でしょう。

こう言った災害肥大性は、先進国全てに言えることで、科学技術を過信しすぎた都市計画の弱面の表れであり、この機に一極集中型都市構想を見直し、自然を生かした人口バランスのとれた環境づくりが必要です。

また計画は、市単位で考えるのではなく、最低でも県単位で広域的に考察し、人は自然の恵み（空気、水、緑、食物等）を敬い、自然に対しての驕りを捨て、生きることが大事です。

そのために私達の業界が何をすべきか、どのような方向性を示唆するのか、今考えなければなりません。専門的知識だけでなく、広い視野に立った物事の把握、雑学を含めた自然との関わり合いの中からの発想やアイデアにより、インテリア・建築・地域・環境を創り上げて行くべきだと思います。

ある意味では、現在の社会経済に流されない、何百年と言うスパンでの継承力、また自然と柔軟に対応し融合する計画など、生なるもの全てと、それを取り巻く環境との一体化が基本概念になると思います。

人は一人では生きられないものであり、地球大自然の中で生きるのではなく、生かされている意を再確認する

最後の機会であろうと思います。被災地の皆様の勇気ある自立と、全国の人々の志的協力をもつての再興を願い、新しい耐震都市をつくるのではなく、柔軟に対応する自然環境生活都市の整備を心から期待したいと思います。

阪神・淡路大震災に思う モノづくりに再考の姿勢を

九州・総務委員会委員長 石井 信義

阪神・淡路大震災にみまわれた、JID 関西会員をはじめ、多くの被災者に対し、心からお見舞い申し上げます。大震災が発生して、すでに2ヶ月半が過



ぎようとしております。一日も早く復興が成し遂げられ、以前にも増して、素晴らしい街と安心して生活できる街の創世を期待するばかりです。

ところで、私は九州に住んでおり、今度のような震災の経験はありませんが、我々デザイナーに、いろいろな教訓を示唆したものではないかと考えております。それは、震災時における振動の家具への影響です。今回の震災では、家具（洋服タンス、サイドボード等）の下敷きになり多くの方が亡くなりました。振動に耐える、取り付け方法や構造について再度確認を新たにしなければなら

ないと考えます。すでにご承知のとおり、平成7年7月1日から製造物責任法（PL法）が施行され、合板や集成材はもちろんのこと、家具などの最終製品も対象になっています。

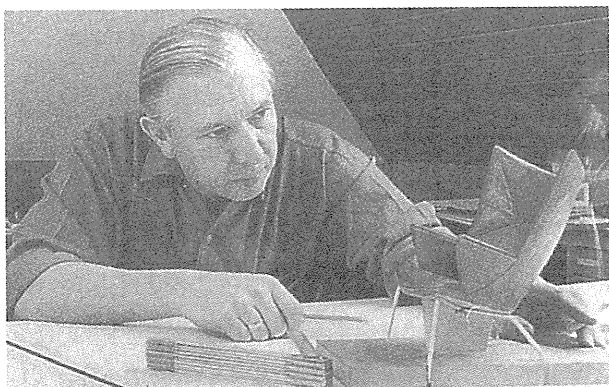
私たちは、高度経済成長の中で様々なモノをデザインして、それを商品として、生活者に提案してきました。バブルが弾け、低成長が進み、上記のように社会情勢が変化していく中で、デザインされた形状の美しさや機能性はもちろんのこと、耐久性だけでなく、今後は、特に安全性（構造強度、取り付け方法等）には、目の離せない重要な課題であろうと考えます。日常生活の中での製品の安全性を加味したデザインが必要となるでしょう。

この機会に、デザイナーとしてのモノづくりの姿勢を、もう一度再考してみる事が大切ではないかと思っています。

50年の軌跡と100の椅子 巨匠 ハンスJウェグナー 展

1995年2月14日(火)～2月28日(火) パークタワーホール[新宿パークタワー3階]
主催＝リビングデザインセンター OZONE 協力＝デンマーク・デザインセンター／織田憲嗣 後援＝デンマーク大使館

Hans J Wegner



現在 80 歳のハンスJウェグナーは、1914 年靴職人の子としてデンマークに生まれました。

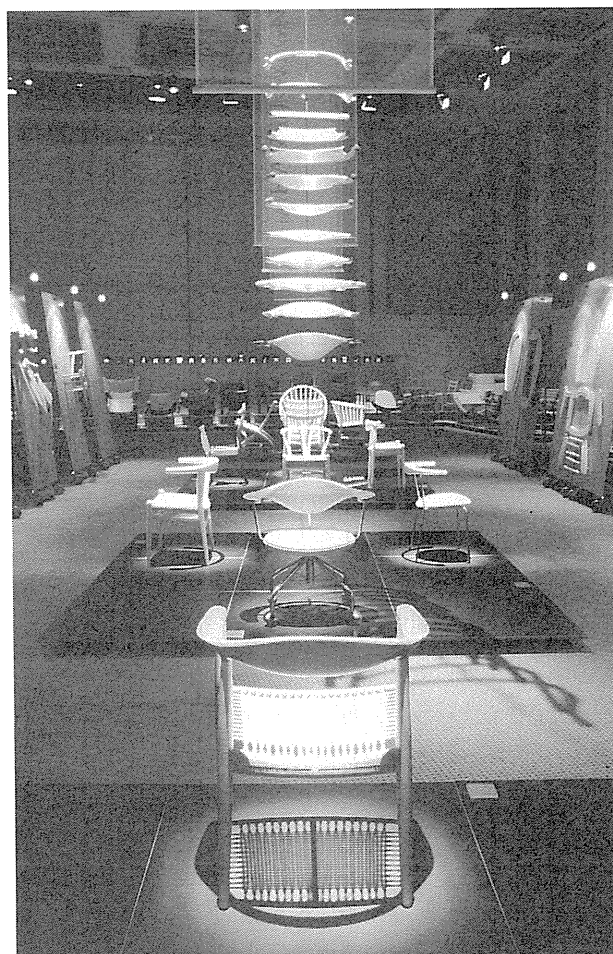
家具職人を経て世界的なデザイナーとなったウェグナーは、誰よりも木の持つ美しさ、優しさを知るクラフトマンとして、約半世紀の間、世界中の人々から愛される椅子を作り続けてきました。

世界の数々の賞を受賞し、「椅子やテーブルは家具の中でももっとも人間の肌に近いところにあるので、木肌の感触を楽しめるものでありたいと思うのです。」と語るウェグナーは、木肌の本当の美しさを大切に、良い材料を無駄なく使い、調度としての本来の機能性、安全性、美しさを椅子に追求してきました。

また彼の作品のほとんどに仕上げ剤など全く施されていないということもその特徴としてあげられるでしょう。

「木肌の優しさは人の肌に似ている」というウェグナーの木への思いは、木の美しさを極めた「職人」の言葉としてその作品を象徴しています。

(展覧会リーフレットより)



パークタワーホール／手前の椅子は有名な「THE CHAIR」



パークタワーホール／壁面の三方に、織田憲嗣氏による 100 の椅子の展示

巨匠 ハンス J ウェグナー 展を見て デザインに対する考え方と人間性を再確認

中部事業支部会員 中里 信正

私がインテリアデザインに興味を持ち初めたのは、1950年代半ば、ル・コルビュジェとシャルロット・ペリアンの展示会が高島屋で開催された頃であつたと思う。直接には同展を見ていないが、新聞に掲載された記事を読み、このような仕事の世界があるのだと初めて知りました。



追って間もなく、北欧デザインがモビリア誌を通じて紹介され、その内容を知ることが出来るようになりました。その機能的で、簡潔なデザイン、ハンディクラフトを加えた加工、素材の特性を知り尽くした使い方と仕上げなど、美しく人間性豊かな表現に、新鮮な感銘を受けました。ヌコア・クリント、フィン・ユール、アルネ・ヤコブセン、ハンス・ウェグナーなどの著名なデザイナーとその作品も知りました。

その頃、百貨店にデンマークコーナーが設置され、その本物の座り、手で触れて、作者の木に対する優しさや温かさ、大切にしている感性まで知ることが出来ました。

そのような訳で、私のデザインの創作活動には北欧デザインがベースとなり、その中で特にハンス・ウェグナーの作風の印象が強く、心に深く残るものがありました。

その後、1960年代から70年代には、イタリアンモダンデザインが世界中で全盛期を向え、1970年代後半から80年代では、ポストモダン運動が起りました。この時代では北欧デザインは理解される機会も少なく、作品的にもあまり高い評価は受けられませんでした。

しかし、1989年名古屋「巨匠たちの心と形 デンマーク 180 脚の椅子展」、1990年各地「フィン・ユール追悼展」、そして今回が開催され、また北欧デザインが再評価される時代が来るのではないかと思います。

この展示会を見て作者の人間性、デザインに対する考え方と取り組み方を改めて認識すると同時に、長年に亘り優秀な共同作業者がいたことを知りました。各々の椅

子が存在感を示し、会場内に美しい世界を創っていました。

巨匠 ハンス J ウェグナー 展を見て まさに芸術品！

関東事業支部会員 須長 壮太郎

ウェグナーは、14歳の頃から家具職人の見習工を始め、17歳で家具の職人技術をマスターしている。それはウェグナー自身が、その後の自分のデザインを実作することにより、デザインをまとめ上げてゆく段階での重要なデザイン作業となっている。



ウェグナーの最も代表的な椅子「THE CHAIR」の笠木部分のジョイントの美しさと力強さは、彼の職人としての木に対する熟練した知識と共に、アイディア・スケッチから模型・実作へと重ね上げてゆくプロセスの中から生まれてきたものだろう。

また、それぞれの椅子の表面に現われている脚・背・座・貫などは勿論のこと、目に見えない構造部分に至るまで、最密の神経で、緊張感のある寸分も動かすことの出来ない完成したデザインに仕上げられている作品は、まさに芸術品といえよう。

北欧のデザインの根底には、クラフトマン・シップ（ハンドクラフト）の味を失わない形で、量産出来るデザインにまとめあげることを重視する考え方がある。また、社会にとって必要なモノを、使い手の立場に立ってデザインし、今何が社会に必要なかどうか問いかけながら、安全で有用なデザイン（用と美）を兼ね備えたモノを作することを基本的な考え方としている。

それらの北欧的なデザインの考え方が、今回のハンス・J・ウェグナーのデザイン展の中に、非常に洗練されたDDC（デンマーク・デザイン・センター）の展示方法により、具体的に明解に表現されていた。

そしてまた、織田憲嗣氏（北海道・東海大学旭川芸術工学部教授）の100脚の年代順に展示されたウェグナーの椅子は、どのようにデザインが完成へと近づけられていったかを理解させると共に、我々に深い感銘を与える大変意味深い家具デザインの展覧会であつた。

1995年「JID 賞」について

選考委員会委員長 島崎 信

昨年、旧「協会賞」から衣替えをして、新たな内容で再出発をし、名称も本協会自身の名を込めた「JID 賞」に多数の応募を受けることが出来た。「JID 賞」に該当する作品こそ得られなかったものの、水準の高い入賞作品を発表することが出来たのは、新発足第1回目として予想以上の収穫と考えている。

今年はJIDが中核となって、アジアで初めての「IFI 総会」と「世界インテリアデザイン会議」が、10月に名古屋で開催される。

この日本のインテリアデザイン界のビッグイベントに合わせて、1995年「JID 賞」の表彰式を、世界インテリアデザイン会議の会場で行うこととして、昨年の要項とほぼ同じ内容で公募を行うこととなった。

「JID 賞」として、大賞1点、インテリアスペース部門賞1点、インテリアプロダクト部門賞1点、インテリア研究・著作・業績部門賞1点、という賞の種類等は昨年と同一である。しかし「対象」は「1994年1月より1995年3月までに、実施・生産・発表された空間・製品・業績等」と、1月より12月までの期間が1995年3月までと広げられたのが、昨年の要項と異なる点といえるだろう。

JID 賞は、自薦他薦の区別なく公募し、またJID会員に限定されることなく、ひろく優れた作品の応募を期待して、公募期間も1995年5月20日より6月10日までを予定している。発表は1995年8月上旬とし、前述のように10月上旬に名古屋での世界インテリアデザイン会議会場で表彰式を予定している。

作品のスライド(35mmマウント付)3枚以上5枚以内と説明文800字以内等の応募形

式は前年度の要項を踏襲しているが、昨年の受賞作等から要領を知り得たものとして、今年は、より水準の高い作品が、より多くの数となって応募されることを、選考委員会は熱い期待を持って公募期間を迎えたいと思っている。

会員拡充のために 「JID 入会のおすすめ」を制作

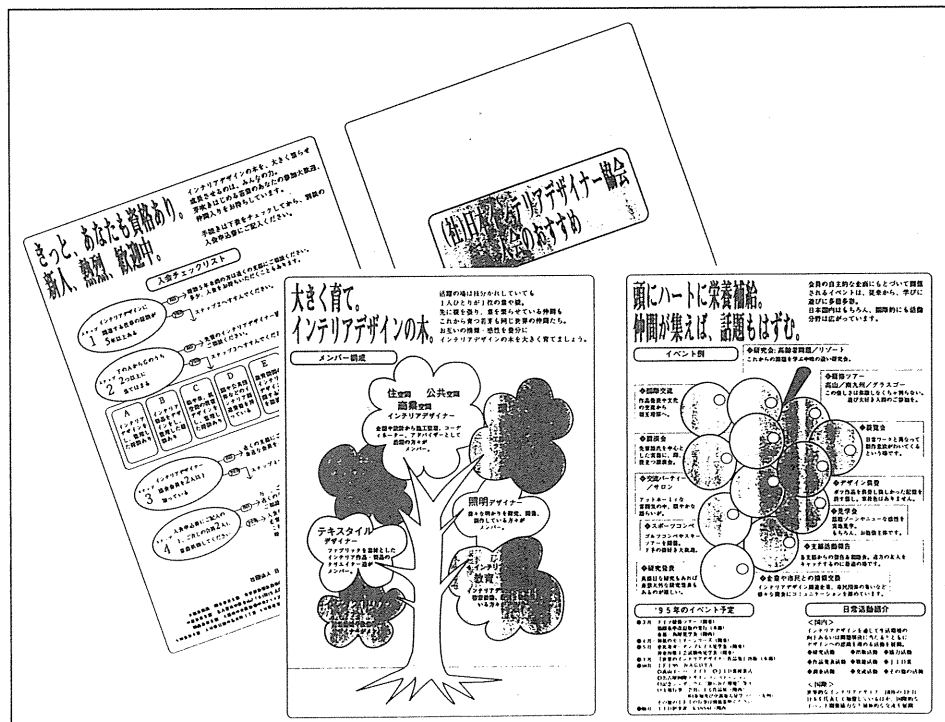
本部・組織委員会委員長 野原 建広

大きな木に美味しい果実が実ります。緑色の枝があれば、赤い枝や、青い枝も目に留まります。その木の実も堅いものや柔らかいもの、香りの好いものや痛い刺のあるものなど様々ですが、1本の木として、豊かな実りを人々に与えています。

今回はこれを更に大きな木に育てあげ、より多くの実をならそうと、「MAC」で、絵に描いてもらいました。

入会を勧めるに当たって、JIDとはどんな組織なのか、入会すればどんなメリットがあるのか、尋ねられて説明に窮した経験を持たれた方も多いと思います。

これらを分かりやすく説明するために、1本の木を植えてみました。社会に木の実を落とすと同時に、あなた自身もその木の実を口にすることができます。



新たに制作されたパンフレット、「JID 入会のおすすめ」

「IFI '95 名古屋」を今秋に控えて、JID は、より多くの力を必要としています。そのためには、1本の枝でも多く繁らせたい、1つでも多くの木の実を収穫したい、と考えています。台風が来ても落ちない、地震が来ても倒れない、大きな木に育てたいと思っています。

組織委員会では「会員の拡充」を目指すとともに、賛助会員の皆様も含めた、組織としての魅力をつくり出すべく、各委員会と協力して行こうと考えています。その手初めとして、本部の総務、広報、交流の各委員会の協力を得て、事業活動の中身をビジュアルに表現したパンフレットを制作しました。

我々が何をやっているのか、社会に対しても、もっとアピールしなければならないのです。仲間を増やす時だけに限らず、JID の説明が必要な場で、このパンフレットを大いに使って頂きたいと考えています。

「世界のインテリアデザイナー作品集」 掲載申込はオーバー、広告収入が課題

本部・出版委員会委員長 宮城 由紀子

作品掲載を募るため、去る1月中旬に募集要項を発送いたしました。申込締切が2月15日で、募集期間が1ヵ月足らずの短期間でしたので、申込が少ないのではないかと心配していましたが、予想に反し、ページ数で150ページ、人数で106名の申込があり、うれしい結果となりました。皆様方のご協力に感謝すると同時に、出版委員一同、少しホッとしております。国内デザイナー作品ページは120ページに限定していましたが、申込者のご希望に副えるよう、作品ページを増やす方向で検討しております。

本のアートディレクションは杉浦康平オフィスにお願いし、大変好意的なご協力を頂いております。又、編集及び印刷会社共、主旨をご理解頂き、全面的な協力体制の上、会員の方々のデザインワークをアピールする本としてふさわしい内容にすべく、委員会で努力しておりますのでご期待ください。

この「作品集」は、JIDの企画、発行ということで、資金的には広告収入に頼らざるを得ませんが、状況は大変厳しく、現在、委員会の大きな課題となっています。会員及び賛助会員の方々と、この「作品集」に企画掲載

又は通常広告をご紹介頂ける方がおりましたら、ぜひ共に委員会までご一報くださいますようご協力をお願い申し上げます。

「もの」の協力と販売員としてのボランティア募集中 会期/4月29日(土)～5月2日(火)

本部・教育研究委員会委員長 中田 重克

Da1995

DESIGNERS AID / CHARITY WEEK

「デザイナーにも社会的な福祉活動が出来ないものか」ということを委員会での議題にしていた矢先に、「阪神・淡路大震災」が起こった。デザイナーが義援金を集めて贈るだけでなく、何か「もの」を通して心や気持ちに触れ合えないだろうかとうことを原点に、「デザイナーズ・チャリティー・ウィーク」を計画しました。

デザイナーが日頃から心掛けている「生活の場のエンターテイメント性」をベースに、生活空間にそれをプラスするだけで、少しホッとするような、お楽しみの、そんな「何か一品」を簡単なコメント付きで募集します。

そしてそれらを、私達が販売し、その売上げの中から義援金として贈るというものです。言ってみればインテリアのフリーマーケットで、デザイン団体の会員を中心に、協力を呼びかけて、より多くの方々に参加して頂くというものです。

お蔭様で後援を内諾して頂いたデザイン団体はJIDを含めて11団体にのびりました。詳しくは先日送付の「案内資料」をご覧頂き、物品の提供、協力メンバーとしての参加、また、会場にもお誘い合わせの上、ぜひお越しください。

また、実行委員会では会員の皆様に、会期中の4日間の内、1日もしくは半日でも、「販売員」をして頂けるボランティアの方々を募集しています。資格は会員ならどなたでも。特に新入会員の若い方たちに積極的に参加して頂き、他の会員たちとの出会いの場として頂けたら

…お問い合わせは下記まで。

(株)日本インテリアデザイナー協会 内
DESIGNERS AID 実行委員会委員長 中田重克

Tel 03-5322-6560 Fax 03-5322-6559

なお、本部・教育研究委員会では、今回の災害について、インテリアを中心とした、調査・研究を行うために、「阪神・淡路大震災」調査研究特別委員会（仮称）を会員有志に編成して頂き、「研究テーマの登録制度」を活用して、研究発表会及びセミナーなど、支援して行きたいと思っております。参加されたい方はご連絡ください。

「JAPANTEX '95」JIDブースを出展

本部・展覧会委員会委員 飯田 公久

「JAPANTEX '95」が、今年も1月25日より28日までの4日間、東京・幕張メッセにおいて開催された。JIDもデザイナーゾーンに2コマの出展を計画した。今回は、今年10月に名古屋で開かれるIFIの世界インテリアデザイン会議のPRを集中的に行うことにした。

本来ならJIDのPRを中心に展示する内容も色々あるけれど、展示会という性格上、テーマが多いと焦点がぼけてしまうという懸念もあり、今回のテーマとなった。期間中7万人以上の来場者に、デザイナー、コーディネーターも数多く来場しており、「IFI」とは何か、また今秋の「世界インテリアデザイン会議」が名古屋で開



JAPANTEX '95のJIDブースディスプレイ／
IFI '95名古屋をPR 撮影／川上信二会員

催されるということを知らない人が多く、それなりの効果はあったように思う。用意したパンフレットもほとんど無くなり、実際にデザイン会議へ参加してもらえるかどうかは分からないが、期待したいと思う。

また、「JID」そのものの質問があった。どういう条件で入会できるのか？とか、どんなメリットがあるのか？。プランナーやコーディネーターなどの資格が取りざたされている昨今、協会会員という資格に関心を持つ若いデザイナーも多いのではないだろうか。

現在の入会資格に問題は無いと思うが、会員の知り合

いが居ないとチャンスが生まれないというのはどうなのだろうか。展示会のような場に足を運び、熱心に勉強している若きデザイナーの卵達へ、入会の目標を提示できたらと感じた。今回はテーマを絞り展示したが、来年もこの展示会へ参加する機会があるのなら、ぜひその辺のPRも検討できたらと思う。

JIDという名前でのPRチャンスは、そうあるものではない。インテリアファブリックス業界での最大のイベントで



JAPANTEX '95のJIDブースディスプレイ／IFI '95名古屋をPR 撮影／川上信二会員

あるこの展示会で、優秀な人材確保や若手の育成の場として利用する方法もあるのではないだろうか。

「報酬基準」の作成について 「お詫びとお知らせ」

報酬基準委員会委員長 長掘 映司

報酬基準委員会では、報酬基準の改定作業を進めて参りましたが、細かい字句の修正作業も1月末に全て終了し、最終チェックのため「公正取引委員会」との調整を行ってきました。

しかし、その結果、当協会の改定案は「独占禁止法」に触れる部分が多いとの指摘を受け、現状のままで解決は困難で、改定案を根本的に見直す必要が出て参りました。

委員会では初校も終り、もう少しで印刷に入るところでしたが、残念ですが一時中止することにいたしました。

会員の皆様には大変ご迷惑を掛けて誠に申し訳ございませんが、もう少し（5～6月頃の予定）の猶予を頂き、再改定案を出来るだけ早くまとめるようにいたしますので、今暫くお待ち頂きたく、お詫び方々お知らせ申し上げます。

「フィンランド・サマー・アカデミー」のご案内 “UIAH Summer Academy” at the University of Art and Design HELSINKI

本部・国際委員会委員 山田 隆二

ヘルシンキ芸術大学（UIAH）において催される、本年夏期のサマー・アカデミーの概略についてお知らせします。興味のある方は、直接、下記連絡先へお問い合わせください。

■プレ・コンファレンス・ワークショップ

8月14日～22日

ヘルシンキ北東約180kmにある風光明媚なサビタイパーレ（Savitaipale）において、世界中の大学・学校から、主に工業デザインの教育者・デザイナー・研究者（学生を含む）などを対象に会議とワークショップの構成で行う。

■複雑さへ挑む：管理ではなくナビゲーション

【国際デザインマネジメント会議】

8月21日・22日

デザイン・マネジメント会議は、このナビゲーション（操縦）の手段を提供し、基調講演といくつかの発表を含んだセミナー・分科会により構成される。フィランド・デザイン・マネジメント学会、生涯学習センターとUIAH研究所及び工業デザイン学部の共催による。

■ゲートウェイⅡ：都市変革の運営

【国際都市デザイン会議】

9月14日・15日

経済的不安定時代の都市は、いかに生き残れるか、また都市の不可欠な変革はいかに運営され得るか？など、2日間にわたり、東西の出入り口という変革の役回りを演じ続けるヘルシンキに焦点を当てながら、'90年代の都市についての討論を国際フォーラムという形で提供する。

UIAHのプロダクト・デザイン学部、環境デザイン学部、生涯学習センター、及びヘルシンキ工科大学の都市と地域デザインセンター、ヘルシンキ市、フィンランド環境省の協力による。

■ポスト・コンファレンス・ワークショップ

【アラビアンランタの国際ワークショップ】

9月18日～22日

ヘルシンキのアラビアンランタ（新都市計画）プロジェクトへの空想的な提案を、バルセロナ・ロンドン・ロッテルダム・ベルリンからの専門家により発表する。建築家・デザイナー・都市計画家・行政関係者・建設関係者の参加が予定される。

■お問い合わせ

Conference Secretariat

Hameentie 135 C

FIN - 00560 HELSINKI

FINLAND

Tel. +358 0 7563 519

Fax. +358 0 7563 537

平成6年度・第4回理事会報告

①日 時 平成6年12月21日(水) 14:00～17:00

②場 所 (株)日本インテリアデザイナー協会

本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1

新宿パークタワー8F

③出席者 理事総数15名中(本人出席11名)

(理事長) 長岡貞夫

(副理事長) 泉 修二、栢原秀榮

(理 事) 浅田弘之、宇賀敏夫、川上信二

白石勝彦、中川帛子、中川千年

福田友美、森谷延周(事務局長)

(委任状) 浅野盛治、小坂希八郎、

清水忠男、山口道夫

(監 事) 榎田 均、金子誠之助

④議 題

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件

第3号議案 議事録署名人選任の件(2名)

II. 報告事項

- (1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- (2) 平成6年度収支状況報告及び現況と今後
- (3) 平成6年度中間決算監査報告
- (4) (株)大阪デザインセンター業務委託料増額について
- (5) 通産省業務監査実施について
- (6) 1995～1996「会員名簿」改訂版制作について
- (7) その他

⑤議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席11名、委任状4名で本理事会は成立した」旨報告。引続き、長岡理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、下記4件について説明した。議長は、承認を諮り、異議なく承認された。

◎「'95クラフトマンズヨコハマ展“微・調和”」 後援

1995年4月18日(火)～23日(日)

主催 クラフトマンズヨコハマ

◎「'95 JAPAN SHOP」 協賛

1995年3月15日(水)～18日(土)

主催 日本経済新聞社、(株)店舗システム協会

◎「第2回愛知県デザイン専門学校合同作品展」 後援

1994年12月20日(火)～25日(日)

主催 (株)愛知県専修学校各種学校連合会文化部

愛知県デザイン専門学校合同作品展実行委員会

◎「第39回東京インターナショナル・ギフト・ショー・春'95」 協賛

1995年2月22日(水)～24日(金)

主催 (株)ビジネスガイド社

第2号議案 会員入退会承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は下記14件について説明した。議長は、承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員(3件)

氏 名	支部	保 証 推 薦 人
広 瀬 文 久	中部	宇賀 敏夫・緒方 克子
安 松 一 雄	関東	杉 富士雄・斉藤 正昭
宇 治 昌 子	関東	わたなべひろこ・山岸 柁史

入会 賛助会員(1件)

社 名	支部	紹 介 者
日進木工株式会社	中部	長 岡 貞 夫

退会 正会員(10件)

氏 名	支部	
美 濃 吉 昭	関西	定款第8条2項(4)により "
村 山 勝 彦	関西	
鶴 蘭 雅 張	九州	
有 川 高 志	関東	
下 川 登	"	
高 橋 憲 治	"	
原 義 之	"	
尾 崎 博 志	中部	
木 村 嘉 利	関西	
栗 本 邦 博	九州	

第3号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は、中川帛子、中川千年両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

議長は、各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、本部事務局については事務局長に活動に関する報告を求め、それぞれが資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部（浅野）

浅野担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

多摩市「聖ヶ丘病院」見学会（第1回第2回併せて70人参加）、及び「建築バスツアー'94」R-90竹中技術研究所ほか（40名参加）について報告。また、新春交礼会（1月）ドイツ研修ツアー（3月）など、今後の予定を報告。

●中部事業支部（宇賀）

IFI'95プレシンポジウム（10月18日）への開催や参加に協力したこと、及び支部運営会の開催（11月12日）などを中心に報告。

●関西事業支部（栢原）

会員増強・賛助会員活性化策などを中心に、本部・組織委員会が開催されたこと（12月2日）、及び展覧会フォーラム、「ECHO」の発行など、今後の予定を報告。

●九州事業支部（中川・千）

南九州研修旅行、九州デザインコンペティション'94展などを中心に、研修や交流の成果と支部メンバーの受賞のほか、九州インテリアデザイン展'95（2月）など、今後の予定を報告。

●選考委員会（浅野）

浅野理事（選考委員）委任出席のため、事務局長が代理報告。

「1995年JID賞」準備開始から表彰式までのタイムスケジュール（案）を報告。

●総務委員会（森谷）

諸細則の中で、「業務の受託・幹旋に関する細則」の改訂（案）をまとめたこと、及び「IDカードの制作配布」の準備に関して報告。

●組織委員会（浅田）

全国会議（12月2日、大阪デザインセンター）

において、会員増強策、賛助会員活性化策、会員の年代別分布などを検討、年度内45名増員目標を報告。

●国際委員会（中川・帛）

第5回世界会議「住居と高層建築—伝統と革新」来年5月14日～19日、アムステルダムにおいて開催、そのうちの写真展に参加計画がある旨報告。

●交流委員会（小坂）

小坂担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

会員拡充に関するリーフレット（総務、組織、広報、交流合同委員会）の作成、及びJIDと賛助会員のあり方について、IFI'95名古屋を含めた検討を行っている旨報告。

●広報委員会（川上）

日経BP社「日経デザイン」編集サイドとの接触状況、及び全国会議（1月21日）の予定などについて報告。

●出版委員会（福田）

インテリアデザイン特別号「世界のインテリアデザイナー作品集」の募集要項のまとめ、発送、発刊予定（7月31日）までのスケジュールを報告。

●教育・研究委員会（清水）

清水担当理事委任出席のため、事務局長より報告資料を配布。（登録研究制度、研究発表会、ミニギャラリーなどについて）

●展覧会委員会（山口）

山口担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

「木工と漆」の和合・融合展（仮称）など、受託事業の計画概要、及びJAPANTECH'95（1月25日～28日）JIDブース展示概要について報告。

●報酬基準委員会（白石）

印刷発注先の決定、発行部数（プロダクト、インテリア各2000部）の調整を経て、2月初旬に会員配布の旨報告。

●デザイン保護委員会（泉）

デザイン保護報告書（仮称）制作について、第1回編集委員会（11月29日）が開催され、来春3～4月に完成に向けてスタートしたこと、及びその制作費用、配布先などについて報告。

●IFI'95委員会（長岡）

長岡実行委員長の代わりに、IFI運営会宇賀事務局長が報告。

IFIニューズレターを中心に、登録料、プログラム、コンペ、協賛金活動、関連事業、第2次サーキュラーなど現状を報告。

(2) 平成6年度収支状況報告及び現況と今後

まず、9月末日現在における「収支状況」について、主な科目の現況を説明。ついで、12月12日現在における「入退会状況」を一覧表により示した。さらに12月19日現在における「年会費」の未納状況を、人口数、金額などを一覧表により示した。その結果、理事会として当面年度内の会員拡充努力、未納会費の督促の2点を確認した。

(3) 平成6年度中間決算監査報告

榎田、金子両監事を代表して、榎田監事より去る10月26日実施した監査結果について、帳簿並びに関係書類の正確性を検討した結果、相互に記載と符号し、正しく示している旨報告。

(4) 財大阪デザインセンター業務委託料増額について

関西事業支部の事務を処理するため、昭和51年7月以来、財大阪デザインセンターに業務を委託、業務量の増大や諸経費の増長などから、委託料増額の申し入れあり。添付資料を検討の結果、事務局長が再考の余地を打診することとした。

(5) 通産省業務監査の実施について

3年に一度の業務監査が、平成7年2月8日（水）10:00～17:00 JID本部事務局にて行われることが決定した旨報告。

(6) 1995～1996「会員名簿」改訂版制作について

平成7年1月10日（火）原稿締切、校正、印刷、製本を経て3月31日（金）発行（予定）、また、広告取得業務は前回同様㈱アーチフリーに委託した旨報告。

(7) その他

●訃報 賛助会員 サンカーベット㈱

代表取締役社長 中辻秀夫

平成6年11月19日逝去 享年59才

●年間行事予定表（修正版）

●防火管理者設定申請について

●JIDニュース12/1月号、発行予定1月18日（水）

●平成6年度第5回理事会開催予定

平成7年1月20日（金）

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

関東事業支部の動き(1)

関東・組織委員会委員長 入江 満

●'95 NEW YEAR'S PARTY

インフォメーションエリア（出展企業PR）

関東事業支部組織委員会では、昨年6月に賛助会員数社を招いて、JIDに対するご意見・ご要望などを伺いました。その中で『JIDの実体が見えてこない』『JIDに入っているけどメリットを感じない』というご指摘が多数寄せられて、このことが今回の企画のキック掛けとなりました。

それには、まず賛助会員と会員とがお互いに知り合うことが何よりも大切と考え、100人以上の会員が一堂に会する新年会を選び、賛助会員と会員相互の交流を深め、情報交換の場をつくるべく計画いたしました。

具体的には「出展企業インフォメーションエリア」1社1ブース（3×6パネルと小テーブル）1万円をリースすることで運営費に充てました。ところが初めてのことであり、時間的余裕も無く、参加頂ける企業がなかなか集まらずハラハラしました。しかし、皆様のご協力を得て最終的には、インテリア関連企業31社（賛助会員、BOSH スポンサー21社、その他9社）の出展を頂



「インフォメーションエリア」を担当した組織委員会の面々

くことができました。

終ってみれば、この企画がご理解頂けたのでしょうか、賛助会員、会員共に大変好評だったと聞きホッとしています。未だ未だ問題点もありますが、来年は改善を重ね、更に意義ある会にしてゆきたいと考えています。



好評だった「インフォメーションエリア」、インテリア関連企業31社が参加
撮影／荒居康明会員

関東事業支部の動き(2)

関東・交流委員会委員 舟橋 千枝

●'95 NEW YEAR'S PARTY

パーティーエリア（新春交礼会）

1月20日(金)、恒例の '95 NEW YEAR'S PARTY（新春交礼会）が、JID事務局と同じフロア、OZONE 8階、グリーンズカフェ及びクラブスクエアで開催されました。



「パーティーエリア」を担当した交流委員会の面々

出席者162名。今回は組織委員会が、賛助会員を中心としたブース展示を企画されたこともあり、賛助会員の出席も多く見られました。

長岡理事長、来賓・村野啓一郎氏のご挨拶に加え、今年は「IFI '95名古屋」の開催年に当たるため、担当の中川理事や名古屋の宇賀理事のご説明があり、「阪神・淡路大震災」の義援金募集も行いました。

賛助会員の展示を覗いたり、通路に並べられた事業活動PRパネルを眺めたり、久しぶりの方とのおしゃべり、忽ち2時間が過ぎてしまいました。会場が2つに分かれていることを心配しましたが適当に動きがあり、広さも



各事業支部や各委員会の事業活動をパネルによってPR



「IFI '95 名古屋」PRのためのオリジナルワインも登場、1本7円で販売、上々の売行き

あってまずまず合格、特に賛助会員の方に好評のパーティーとなりました。来年は、お食事の内容をもう少し検討して欲しいとの声がチラリと耳に入りました。

中部事業支部の動き

中部事業支部支部長 池田 高明

「IFI '95 名古屋」開催まで、いよいよ半年余となりました。当支部は開催地でもあり、総力を挙げての会議開催協力が、次年度の主たる活動となりましょう。そこで、去る1月28日、レストラン・イタリッチにおいて、新年会を兼ねて会員相互の意見交換の場としての懇談会を開催しました。支部活動の活性化を図るにはどうすれば良いかについて、先に本部・組織委員会がまとめた会員の意識調査を参考にしながら活発な討議が交わされました。

会員の参加意識を高めるためには、支部活動の目的、方向性を更に明確化すること、様々な分野の会員で構成されるJIDの特色を生かした活動を展開すること、産業界や行政並びに教育機関との接触を、より密にし、情報収集に努めること、その他事業の定期開催や若年層の会員増強等種々の意見が出されました。そして「IFI '95 名古屋」開催までの準備状況をはじめ、会議の様子をまとめ、支部としての記録を作成してはとの提案があり、会員全員の協力のもとに取り組みたいと考

えております。

関西事業支部の動き

関西事業支部支部長 千田 要宗

●関西事業支部のこの2ヶ月

松の内が明けた'95年の関西は、地震から始まってしまった。被災地の中核では、まだライフラインが完全でなく、その地域の会員の方々の日々のご苦労は想像に余りあるものがある。一日も早い平常を願うばかりである。

そんな中、IFI、国際両委員会の企画で、3月中旬、大阪と広島で「IFI '95 名古屋」の説明会が計画されている。地震被災者の中でも、ブランド付きの小宮容一IFI委員長が、たいへんな中で推進して下さっている。次号では成果をお伝えしたい。

そしてもう1つ、交流委員会の「JID倶楽部」が2月15日に約40名の参加の基に、照明器具のマックスレイ本社にて開催された。コンクリート吹抜けの大きな空間で、少々寒い中、和気あいあいと進められた。テーマは「企業とデザイナーのこれからの関わり方」を、酒宴の席でざくばらんに語り合おうということ。ゲストにはマックスレイの山本社長、マルチアーティストの澤村専務、経営コンサルタントの田村氏の御3方をお招きし、楽しくも有意義な集いであった。

九州事業支部の動き

九州・展覧会委員会委員長 山永 耕平

●九州インテリアデザイン展'95

昨年より企画して参りました「九州インテリアデザイン展'95」を、2月17日(金)～19日(日)の3日間、トーク&セミナーと交流パーティー等も含めて、盛会のうちに無事終了することができました。

九州事業支部では過去4回に亘って、隔年おきの作品展を行って参りましたが、今回は今までとは違ったやり方を提案、1人1人が自分のパフォーマンスの場所として1ブースを借り切って、自分の仕事をアピールする方法で賛同者を募ったのが昨年7月末のことでした。最終的には10名のメンバーが参集、実行委員会が開催され



九州インテリアデザイン展／会場風景



九州インテリアデザイン展／長岡理事長
によるIFI'95名古屋キャンペーン



九州インテリアデザイン展／
交流パーティー

たのは昨年11月はじめのことでした。4回の実行委員会を重ね、充分な準備の上に開催された作品展のなか日は、メインのトーク&セミナーに始まり、後に続いた長岡理事長による「IFI'95名古屋」のキャンペーンは、JIDの活動を福岡において印象付ける意味で、大変効果的なレクチャーとなりました。

また、今回のイベントの最も意義のあるものとして、位置付けて考えられていた交流パーティーは、途中、九州通商産業局の働きかけにより、九州デザイン協議会との交流サロンとジョイントすることによって、JIDの会員でもある照明デザイナーの松下美紀氏を、キーパーソンに迎え、今までにない盛大なものとなりました。総勢130人を越える交流パーティーは、我々の活動がプラスαを生むようなイベントをという発想に基づいて準備されたものにふさわしい盛り上がりを見せました。このように「九州インテリアデザイン展」は私共の隔年おきの基本行事として、今後とも継続して行くつもりであります。

最後に、実行委員として頑張って頂いた出品者の皆様、大変お疲れ様でした。また今回の企画を最後まで支えて頂いた九州事業支部の皆様、お忙しい中ご参集頂いた各種団体、あるいは個人の方々すべてに紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

リリカラウォールラボ“CoCo” 特別展示のご案内 「土と和紙の出会い」

賛助会員・リリカラ(株) 川合 二郎

新感覚の壁紙専門ショールームとしてご好評を頂いているリリカラウォールラボ“CoCo”（リビングデザインセンター OZONE 6階）では、来る4月6日（木）～25日（火）の20日間、「土と和紙の出会い」と題した特別展示を行います。昨年度の通産省選定グッドデザイン商品となった和紙壁紙に、石・ステンレス・漆・木などの異素材をからめた、調和と対比の試みです。

現代のインテリアデザインの中で、和紙はすでに和風空間の域を超えて、多方面で駆使される素材となっています。今回の「土と和紙の出会い」で、インテリアデザイン関連のプロユーザー、および一般エンドユーザーを問わず、さらに新たな方向へのヒントとなることを願っております。

開催期間／4月6日（木）～25日（火）

※ただし、12日（水）と19日（水）は定休日です。

場 所／リリカラウォールラボ“CoCo”

東京都新宿区西新宿3-7-1

新宿パークタワー6階

リビングデザインセンター OZONE 内（入場自由）

TEL. 03-5322-6545



新宿パークタワー6F・リビングデザインセンター OZONE 内／リリカラウォールラボ“CoCo”

【平成7年度「文芸美術国保」のご案内】

会員の中でも、「文芸美術国保」の有利さから、毎年加入する方が増えてきています。

去る3月6日、平成7年度（4月1日より）の保険料額について連絡がありました。これまでより若干の値上げとなりましたが、下表のように、場合によっては、組

合員月額 9,300 円、家族 1 名 4,300 円と「一般国保」より有利です。特に家族数の少ない方に、ご加入をお勧めいたします。

加入者については、新しい被保険者証（様式は前年通り、色調は空色）及び保険料払込通知書を3月末に発送予定とのことです。

●加入ご希望の方は本部事務局までお問い合わせ下さい。

文芸美術国民健康保険組合と東京都23区の保険料比較表

（平成7年4月）

	組 合 保 険 料 組 合 員（月額） 9,300円 家 族（月額） 1 人 4,300円 年 額	東京都23区保険料年額（住民税×107.0/100 1人につき16,800円） 賦課限度額 50万円					
		7年度の住民税（特別区民・都民税）					
		10 万円	15 万円	20 万円	25 万円	30 万円	35 万円
単 身 者	111,600	123,800	177,300	230,800	284,300	337,800	391,300
家 族 1 名 （世帯人数2名）	163,200	140,600	194,100	247,600	301,100	354,600	408,100
家 族 2 名 （世帯人数3名）	214,800	157,400	210,900	264,400	317,900	371,400	424,900
家 族 3 名 （世帯人数4名）	266,400	174,200	227,700	281,200	334,700	388,200	441,700
家 族 4 名 （世帯人数5名）	318,000	191,000	244,500	298,000	351,500	405,000	458,500

（注）太線内に該当する方は、「文芸美術国保」の方が、収入に拘わらず一率料金のためお得です。

【義援金のご報告】

この度の「阪神・淡路大震災」に際して、多くのJID会員の方々から、たいへんお心のこもった「義援金」をお寄せ頂きました。

1日も早く平常に戻れることを願いながら、ご報告させていただきます。ご協力ありがとうございました。

〈収 入〉

関東事業支部	166,112 円
中部事業支部	40,000 円
関西事業支部	370,000 円
九州事業支部	132,000 円
合 計	708,112 円

〈支 出〉

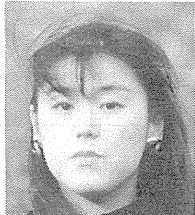
お 見 舞 金	360,000 円
（関西事業支部より兵庫県を主とした22人の方々へ）	
義 援 金	348,112 円
（関西事業支部より日本赤十字社へ）	
合 計	708,112 円

（平成7年3月20日現在／本部事務局）

【 新 入 会 員 の 紹 介 】

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
ひろ せ ふみ ひさ 広 瀬 文 久 会員番号 1088 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	学校法人 河合塾学園 トランデントスクールオブデザイン スペースコース 愛知県名古屋市中村区則武1-15-3 〒453 TEL 052-451-1171 FAX 052-452-0574 岐阜県本巣郡穂積町別府330-1 別府住宅505 〒501-02 TEL 05832-7-5873 宇賀 敏夫・緒方 克子
やす まつ かず お 安 松 一 雄 会員番号 1089 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)多摩そごう 家具家庭用品課 東京都多摩市落合1-46-1 〒206 TEL 0423-39-2353 FAX 0423-76-6683 東京都日野市多摩平4-4-67-302 〒191 TEL 0425-84-5230 FAX 0425-84-5230 杉 富士雄・斎藤 正昭
う じ まさ こ 宇 治 昌 子 会員番号 1090 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	Uji Publicity インテリア 福岡県北九州市小倉南区中曽根5-7-5 平野グリーンマンション502 〒800-02 TEL 093-472-8693 FAX 093-472-4238 同 上 わたなべひろこ・山岸 柊史
おさ べ ゆみ こ 長 部 由美子 会員番号 1091 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	デザイン オフィス オサベ 東京都渋谷区富ヶ谷2-45-7-107 〒151 TEL 03-3465-2241 FAX 03-3465-2243 神奈川県川崎市麻生区王禅寺1438-241 〒215 TEL 044-954-2141 FAX 044-955-9881 下島 資子・森谷 延周
おお の けい じ 大 野 敬 二 会員番号 1092 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	長岡貞夫デザイン事務所 東京都武蔵野市吉祥寺南町1-18-7 アペーテ吉祥寺202 〒180 TEL 0422-43-2360 FAX 0422-44-5760 東京都杉並区阿佐谷南3-33-3 グリーンハイツ105 〒166 TEL 03-3220-0554 長岡 貞夫・森谷 延周

●賛助会員

会員名及び番号		住 所 ・ 電 話 及び 担当者
日進木工株式会社 会員番号 3150	住 所 担 当 者 紹 介 者	岐阜県高山市桐生町7-78 〒506 TEL 0577-34-1122 FAX 0577-34-7311 取締役営業部長 尾花 蕃 長岡 貞夫

●会員の異動についてご連絡頂いておりますが、「会員名簿改訂版」が近日中に発行されます。従って今回は割愛させて頂きました。

株式会社 三 越
(会員番号 3122)

〒103 東京都中央区日本橋室町1-2-4 三越SDビル
TEL 03-3274-8160 FAX 03-3274-6265
商品本部 石野匡宏

株式会社 森 傳
(会員番号 3125)

〒108 東京都港区三田3-9-9
TEL 03-3454-8211 FAX 03-3456-4512
家具装飾部、営業部次長 小林要希

ミリケン・ジャパン株式会社
(会員番号 3123)

〒150 東京都渋谷区桜丘町22-14 N.E.Sビル
TEL 03-5458-5015 FAX 03-5458-5018
カスタマーサービス 島田知津代

八千代化工株式会社
(会員番号 3127)

東京営業部 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-20-1-204
TEL 03-3497-9558 FAX 03-3497-9570
東京営業部次長 黒川 潔

株式会社大和金属製作所
(会員番号 3130)

〒581 大阪府八尾市八尾木1-211
TEL 0729-23-0321 FAX 0729-94-5619
取締役 営業部長 応地靖宏

ヤマギワ株式会社
(会員番号 3128)

〒101 東京都千代田区外神田4-1-1
TEL 03-3253-2111 (大代)
ヤマギワ照明(株) 開発部次長 遠藤充彦

1995/2～3

1995年3月31日発行 (社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報1995年通巻186号)

編集／発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会事務局 印刷所・有限会社 コーエイ企画
〒160 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F
TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559